

並行在来線とは

開業する新幹線と並行し、特急列車が新幹線へ移行する在来線を指します。

並行在来線に該当する区間はJRから経営が分離され、地域の第三セクター会社等によって運営されます。



サンダーバード・しらさぎ等



北陸新幹線

北陸新幹線の並行在来線区間

北陸新幹線福井・敦賀開業時に経営分離される区間



県内区間の現状（普通列車のみ）

運行本数（R4.3ダイヤ）

旅客：102本/日

貨物：33本/日

旅客実績（R元年度）

乗車人員：約20,000人/日

輸送密度：約5,600人/日・km

貨物実績（R3年度）

通過トン数：約240万トン/年

※全国輸送量の9%相当

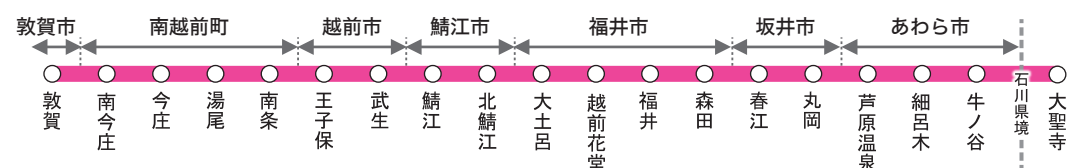
使用車両

形式：521系

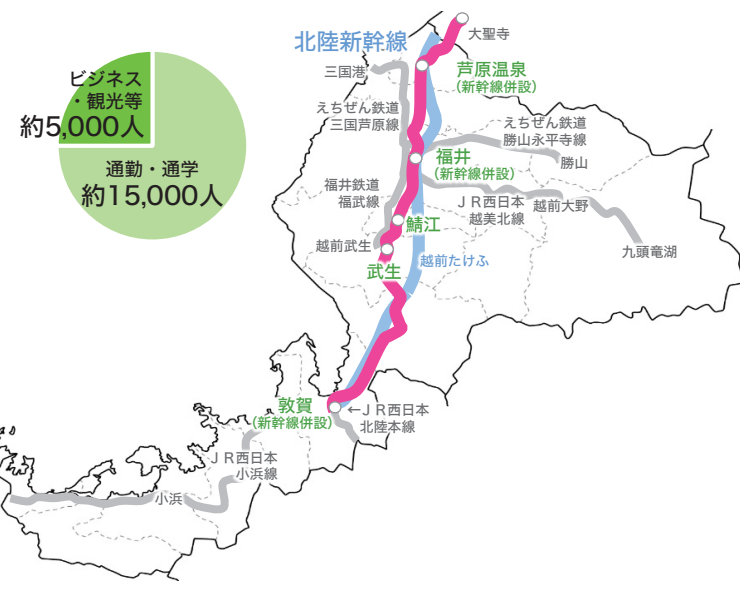
定員：約250人（座席数88）

※2両編成時

営業区間 敦賀～大聖寺駅間 84.3km、18駅（大聖寺駅除く）



並行在来線福井県区間



株式会社ハピラインふくいについて

JRからの経営分離後も並行在来線を地域で運営していくため、令和元年8月に第三セクター会社を設立しました。令和4年7月には、県内外からの公募案をもとに、正式社名を「株式会社ハピラインふくい」に決定し、現在は開業準備を進めています。

名称 株式会社ハピラインふくい（愛称：ハピライン）

社名の由来・意味

「ハピネス（しあわせ）」は、福井県の「福」を表し、県民に親しまれている言葉です。「ひと」と「まち」を、鉄道が線（line）となって「つなぐ」ことで、「しあわせ」な福井の未来を創っていきたい、という姿勢を表しています。

シンボルマーク



「ハピライン」と「ふくい」のそれぞれの頭文字「H」と「F」をひとつのマークに。安定感のある三角形とひし形をやわらかなフォルムにして構成します。その間（はざま）には、どんな明日へでも繋がっているラインが浮かび上がっています。

キャッチコピー ふくいとあしたの架け橋に。

設立日 令和元年8月13日

所在地 福井市大手2丁目4-13

資本金（R4.12現在） 25.2億円（県、全市町、鉄道・運輸機構、民間企業が出資）

社員数 約280人（開業時の予定）

※詳しい情報は、会社のホームページをご覧ください

HP：<https://www.hapi-line.co.jp>



これまでの並行在来線のあゆみ、今後のスケジュール

- H25～ 関連調査（北陸本線の現況、旅客流動、将来需要予測、収支予測など）
- H30. 8 経営・運行に関する基本方針の決定（経営形態、運行形態、組織など）
- R1. 8 福井県並行在来線準備株式会社を設立
- R3. 10 福井県並行在来線経営計画を決定
- R4. 1 国土交通大臣が鉄道事業を許可（鉄道事業再構築実施計画の申請・認定）
- R4. 7 「株式会社ハピラインふくい」に社名変更・増資
- R5. 冬頃 開業時の運賃・ダイヤを公表
- R6. 3 ハピラインふくい開業

2024年 春



ハピラインふくい 開業



ココが変わる！

- ▶ 増便や新たな快速列車の運行で、誰もが利用しやすいダイヤ編成 にします！
- ▶ 駅舎を、使いやすく、楽しく、「行ってみたいくなる駅」にモデルチェンジ します！
- ▶ 沿線市町や地域鉄道と連携したイベントを実施 します！

経営計画の概要

令和3年10月、並行在来線の経営指針となる「経営計画」が県、市町、経済団体、利用者団体等で構成する「福井県並行在来線対策協議会」において決定されました。

今後は、この経営計画に基づき、株式会社ハピラインふくいにおいて具体的な開業準備を進め、令和6年春には、県民に親しまれ、利便性の高いサービスを提供する地域に密着した県民鉄道として運行をスタートします。

運営組織、資本金

- 開業時要員数：約280人（自社員100人、JR出向170人、県派遣等10人）
※開業10年後を目途に、JR出向を解消します。
- 資本金：26.2億円
県、全市町、民間企業、鉄道・運輸機構が出資します。

運賃水準

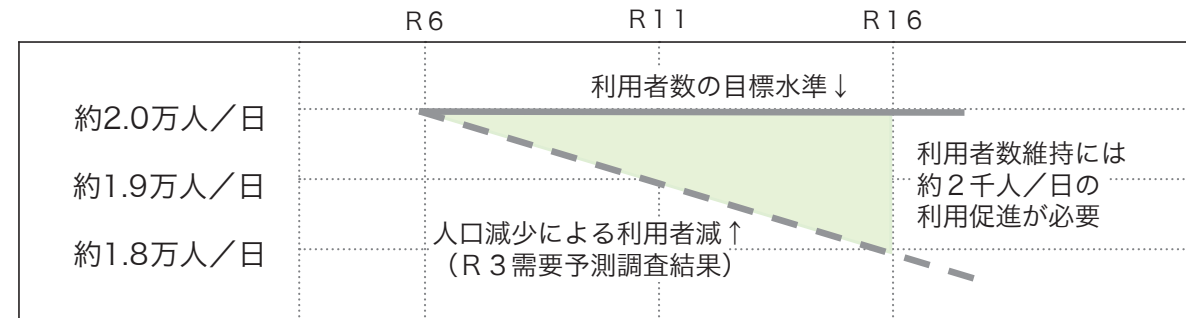
- 概ね近隣県並みの運賃水準にします。（記載倍率はいずれも対JR運賃比）

券種	福井県		参考：近隣県の水準			
	1～5年目 (激安緩和)	6～11年目	石川県		富山県	
普通	1.15倍程度	1.20倍程度	1.14倍	1.19倍	1.12倍	1.19倍
通学定期	1.05倍程度	1.05倍程度	1.00倍	1.05倍	1.03倍	1.05倍
通勤定期	1.15倍程度	1.20倍程度	1.14倍	1.19倍	1.12倍	1.19倍

※ともに6年目以降の値上げを見送る中
富山県：2023年春から表「6～11年目」の水準に値上げ予定
石川県：2024年春から金沢以西区間においても、以東区間と同水準（表「1～5年目」の水準）に値上げ予定

利用者数の目標

- 1日の利用者目標を約2万人とします。
- 利用者数を開業年度から11年間（令和6～16年度）維持します。



経営安定化策

- 本県会社の経営を支えるとともに、運賃値上げ抑制のため、収支不足を補う財源として県に「福井県並行在来線経営安定基金」を設置します。
- 基金総額：70億円（県35億円、沿線市町35億円）
- 計画期間：令和6～16年度

利用促進策

並行在来線が将来にわたり安定した経営を維持するため、また、地域に密着した県民鉄道として魅力あふれる鉄道づくりを進めるため、市町、地域と連携しながら、鉄道利用を促す様々な取組みを実施します。

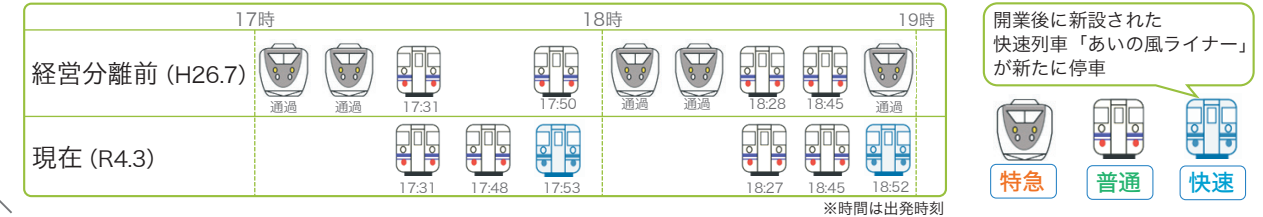
1 利便性の向上

- 増便、快速列車の運行等

・現行運行本数：102本/日
・快速列車の運行なし

・開業後運行本数：126本/日（24本の増）
・増便24本のうち8本は快速列車
・パターンダイヤ化

参考：あいの風とやま鉄道 小杉駅（富山方面）…開業後に停車本数が4本から6本に増加



- 新駅の設置（福井・森田駅間、武生・鯖江駅間、王子保・武生駅間に設置を検討）
- パークアンドライド駐車場の整備・拡充（鉄道遊休地の駐車場化）
- 観光・イベント列車の運行



新駅：新富山口駅（富山県富山市）あいの風とやま鉄道



観光列車「えちごトキめきリゾート雪月花」えちごトキめき鉄道

2 駅を中心としたまちづくり

- 駅・駅周辺の賑わいづくり（イベント実施や周辺観光案内 など）
- 既存駅のモデルチェンジ（駅舎内空きスペースの活用 など）
- 駅を中心とした都市機能の集約や居住誘導



学生向け自習室 えちごトキめき鉄道 直江津駅

3 交通事業者との連携

- 地域鉄道等との連携（共通フリー切符や企画切符の発行、イベントの共同開催 など）
- 交通事業者等との連携（バス会社、JR、IRいしかわ鉄道と連携した広域的な取組み など）

4 地域に親しまれる鉄道への転換

- 社名の公募、県民の参画（キャラクター・ロゴマーク公募、駅舎活用 など）
- マイルール意識の醸成（地域による駅周辺の環境美化、名誉駅長の委嘱 など）
- サポーターズクラブ、福井県並行在来線利用促進協議会の設置（R4.3設置）

利用促進協議会やハピラインふくい、県・市町の具体的な取組み

1 利便性の向上

- ダイヤ・運賃の検討

令和5年冬の公表に向け、想定ダイヤや定期・定期外運賃、企画切符料金などの検討を進めています。

ダイヤ・運賃公表スケジュール想定
R5.12頃：運賃、ダイヤ概要の公表
R6.1頃：開業時ダイヤ公表
R6.3：ハピラインふくい開業

- 新駅の設置（王子保・武生駅間）

ホーム・改札など駅施設や、駅前広場の設計作業を進めています。



2 駅を中心としたまちづくり

- 駅の機能強化、駅周辺の賑わいづくり
敦賀駅前「otta」の整備や、鯖江駅東口改札の新設など既存駅の再整備を進めています。



3 交通事業者との連携

- 福井鉄道、えちぜん鉄道との連携

レールや枕木など資材の共同購入や、技術研修会の実施など保守管理技術の向上、鉄道イベントの共同実施などの検討を進めています。



- 北陸3県が連携した利用促進

共通フリー切符や観光・イベント列車の運行など、広域的な利用促進策の検討を3県会社とともに進めています。

4 地域に親しまれる鉄道への転換

- 利用促進に取り組む地域活動等の創出

駅舎を活用したイベントなど、地域団体の活動を支援しています。



- ファンクラブの設立

県民の皆様にもマイルール意識をもっていただき、ハピラインふくいを盛り上げていくため、ファンクラブを設立します。（R5年秋頃設立予定）